

ハリウッド女優の勇気ある決断

にしだ かずみ
西田 一美

●自治労・総合企画総務局長

今年5月に、ハリウッドの代表的な女優アンジェリーナ・ジョリーさんが、乳がん発症を回避するために両方の乳房の乳腺を切除する手術を受けたことが報じられた。遺伝子検査を受けたところ医師から87%の確率で乳がん、50%の確率で卵巣がんを発症すると言われたためだとされている。これまでにない発想と方法があまりにも衝撃的で、日本でも大きく報道された。また、理由として発症確率の他に彼女の母親や伯母が乳がんなどを患っていたためだとも言われた。

日本における乳がん発症は、15人に1人ともいわれる時代に入っており、アンジェリーナ・ジョリーさんのニュースは、他人事ではないと捉えた女性も多かったのではないだろうか。

また少し前に、女優の樹木希林さんが「全身がんです」と衝撃的な発言で驚かせたが、彼女は乳がん手術の後悔から今は手術はしない治療をしている。

乳がん手術・治療に関して以前は、初期の乳がんでも乳房全部摘出が一般的であったのだが、最近では再発リスクは変わりがないということで初期の乳がんなどは温存療法（部分切除手術等）が一般的になってきた。そのことは、必要のない部分まで切除してしまうことで他の臓器への影響や、大きい手術による合併症等のリスク回避のためといわれている。

慶應義塾大学医学部専任講師の近藤誠医師

（著書「乳がんは切らずに治る」「余命3カ月のウソ」他）が1988年に乳がんの全摘に疑問符を投げ、温存療法を先進的に進めてきたと著書の中で触れている。また、「マンモグラフィーで発見される乳がんの99%は『乳がんもどき』であるのに乳房を丸ごと切り取る手術が広く行われている。気を付けて。」と書かれている。予防医学の進んだ現代では、どんなに小さながんでも発見することが可能になり、発見したとたん手術と抗がん剤治療や放射線治療等が行われる、そのことが体を衰弱させてしまいむしろ寿命を縮めさせてしまうとされている。樹木さんの決断はこちらに近い。

この近藤理論によって温存療法が一般的になってきたことと、今回のアンジェリーナ・ジョリーさんの選択とは相反する気がする。日本の複数の病院でもアンジェリーナ・ジョリーさんの受けた手術を実施する方向で検討がされている。

私たちにとっては、どちらが正しいのか迷ってしまうが、どちらにしても自分に与えられた現実を、「どのように受け止め」「今後の人生をどのように生きていくか」そのための選択するのは自分自身であるし、安心の選択肢が広がったという意味では、アンジェリーナ・ジョリーさんの決断と公表したことの勇気は大きな功績だと思う。